

事業の背景・目的

大台町では、一部が吉野熊野国立公園に、全町がユネスコエコパークに指定されている。豊かな自然環境を有している利点を生かし、既に重要性が認定されているエリアの隣接地内が、将来的に30by30の達成に貢献できるようOECMに加算されることを視野に入れ、生物多様性の保全再生に資する活動を実施する。また、持続可能な地域資源の活用として、一方的な放流だけに依らない遺伝的多様性に配慮したアマゴの自然繁殖できる河川作りを、大学の研究者と連携して取り組む。

事業の内容

事業①

生物調査

- ・文献調査12回
- ・実地調査6回
- ・探鳥会1回（参加者27名）
- ・魚類調査5回

事業②

アマゴが自然繁殖できる河川作り

- ・関係者との意見交換及び調整6回

事業③

生物調査員育成のための勉強会及び啓発活動

- ・大台町生物調査員養成講座2回（10/22参加者16名、11/3参加者18名）
- ・実地調査9回

事業④

協議会の実施と生物多様性とネットワーク構築についての研修会

- ・協議会2回
- ・研修会2回（9/2対象は協議会員のみのみ、2/27参加者18名）

得られた成果

・大台町版レッドリストにかかる生物調査及び調査員の育成については、専門家を講師に招き調査員養成講座を2回実施した結果、延べ参加者34名で28名の生物調査員が育成できつつある。また、専門家を講師に招いた探鳥会についても27名もの町民参加があり、想定以上の参加が得られた。

・アマゴの自然繁殖できる河川作りについては、本来ならば今年度から調査開始予定だったが実施ができなかった。しかし、年度末に実施した漁協関係者、大学研究者、アマゴ養殖業者の方々との話し合いにおいて、来年度以降の調査実現の兆しが見えてきた。よってこの事業期間内の本来の目標完遂は不可能ではあるが、来年度から3年かけて調査、保全及び繁殖促進を行い、地域資源であるアマゴの遺伝的多様性の存続や自然繁殖ができる河川作りを目指す。

